

豪雨や猛暑に負けない志波柿

朝9時過ぎから収穫作業に入った。夜中まで降り続いた雨で柿の実が濡れていたため、籠には一段ずつ新聞紙を引き詰めて水分を取りながらの作業となった。翌日に朝倉地域や那珂川市内でイベントがあり、復興支援として志波柿の販売を行うため収穫作業は急ピッチで進められ、午後3時頃まで行われた。



ようやく動き出した復旧事業



柿の収穫作業が行われている一方で山間部の崩れた河川の護岸工事や柿畑の修復作業が国の事業で今年の被災以降1年を経過してようやく動き出している。河川は以前の形を残しながら護岸をコンクリートで強化していく、また土砂に埋まった柿畑は柿の木を撤去整地し、ここでは野菜等の畑に生まれ変わる。

九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々からご見舞い申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。

志波富有柿収穫始まる

雨上がりの11月17日(土)朝倉市杷木志波地域において今年も名産の志波富有柿収穫作業の支援ボランティアを行った。西日本豪雨や猛暑にも負けず今年も甘くておいしい志波柿がたわわに実り、山肌は赤く染まっていた。

週間予報ではこの日は大雨の予報で収穫作業はできないかと案じていたが、夜中に雨が上がり、曇り空ではあったものの、暑くも寒くもない見事に作業には最適な状況となった。



今年の猛暑で昨年より早く葉が赤くなっており、収穫量も少し少ないということではあるが見渡す限りでは充分実が生っているように思えた。昨年土砂に埋まっていた柿の木にもしっかりと実がついており、安心した。



▲ひとつずつ丁寧に収穫していく